

福井県退教通信

編集・発行所
福井県退職教職員会
郵便番号 910-8544
福井市大手2-22-28
福井県教育センター内
電話 (0776)23-9191

第64号

提言 現在満72歳になつて思うこと



副会長 堀田 稔

70年前の様子と現在の様子について比較してみました。

- ① 家にはエアコン・扇風機がなく、今日ほど暑くなかったため、団扇を使つて暑さをしのいでいた。現在ではエアコン・扇風機を使うことができ、快適に過ごしている。
- ② 集落には一台も乗用車がなかった。住民はバスや列車を使用して移動していた。現在では家庭には一人一台の車がある。
- ③ 農家では自給自足の生活をしてきた。食事の内容は大変質素であった。現在では農家の人も食材をスーパーマーケットで購入し美味し

いものを食べられるようになってきている。

- ④ 各家庭には電話がなかった。集落に一台あっただけである。大変不便な生活をしてきた。現在では、各個人で携帯電話を持ち大変便利な生活を送っている。
- ⑤ 一軒の家に何世代もの人が一緒に暮らしていた。現在では、結婚すると新しい家を建て、気楽に生活ができるようになった。
- ⑥ 飯は薪で炊いていた。もちろん暖房にも薪を使用していた。現在ではオール電化になり、煙を見ることがない。
- ⑦ テレビやラジオ、パソコンがなく、新しい情報を得ることが難しかった。現在では、簡単に情報を得ることができる。

以上、昔を思い出し、今の生活と比較すると、私たちは本当に便利な生活を送っている

ると痛感します。しかし、この便利な生活を成り立たせているのは、電気やエネルギーを使用できるからです。地球環境に大きな負担をかけて生活をしているわけですが、私自身もそうですが、地球に優しいとは分かっていても、簡単に昔の不自由な生活に戻することはできません。出来ることは、日々の生活に感謝し、地球のエネルギーを使わせてもらっているのだと、認識す

ることしかできません。また、国民すべてが加入する公的年金制度が始まったのは1961年からです。それまでは、高齢者は年金がもらえませんでした。現在の私は年金を頂けるので、贅沢こそできませんが、安心して老後の生活を送ることができています。本当に有難いと思つています。

ユニセフ募金および教育請願署名の協力ありがとうございました

2023年度ユニセフ募金 10,725円
2024年度の教育条件整備を求める請願署名 7,079筆

となりました。ご協力に心から感謝申し上げます。ユニセフ募金は、支部総会等で募金していただいた分をユニセフ協会に送金しました。教育請願は、集まった署名を本会も協力している「福井の教育をよくするための県民協議会」から県議会議長にお渡ししました。

昨年実施した教育請願の成果について

昨年実施した教育請願は、お陰様で、4つの請願内容すべてが県議会で採択されました。その結果、どのような成果につながったか報告します。

- 請願① 不登校の子どもたちのための多様な教育支援の場の確保
〈成果〉校内フリースクールの設置校が2校から5校に増やされた。
- 請願② 「地域の子どもの居場所」を増やすための支援活動の推進
〈成果〉子ども食堂等が支援活動を効果的に行うために、『子どもに利用を促す』・『運営支援可能な団体や企業とつなぐ』・『運営費助成の仕組み整備』・『その重要性を社会に発信』等、重要な機能を持つ支持基盤の各市町における整備に向け、県が新たに予算を計上、具体的作業が取り組まれつつある。

- 請願③ ICT活用による学校業務の効率化の推進
〈成果〉「福井県DX推進計画」が策定され、それにより学校業務の効率化が図られ、家庭や学校の負担軽減が進みつつある。(欠席連絡・おたより配布・授業等でICT利用等が進んでいる)

- 請願④ 危険な通学路の修繕や交通規制等の事故防止対策の強化
〈成果〉通学路における危険箇所の早期解消の対策が継続して着実に講じられている。また、パトロールや街頭監視等の要望の多い箇所から交通事故防止の活動が着実に進められている。

次年度(令和6年5月)親睦旅行のご案内

次の親睦旅行「第38回すいせん会」を令和6年5月14日(火)～15日(水)実施予定で計画しています。今回は『神々を感じ 美しい自然につつまれて』というタイトルで「世界遺産 那智熊野をめぐる旅」をご用意しました。たくさんの方の皆様のご参加をお待ちしています。旅行の詳細は、別添の旅行案内・参加申込書を確認してください。

尚、本年度10月の親睦旅行は都合で中止としました。お申込みいただきました会員様には、お詫び申し上げます。

学校勤務の退教会員に対する 意識調査報告

県退教事務局会

県退教活動方針「教育や教職員の支援」の一貫として学校勤務の退職教職員の処遇充実をめざして、該当の本会会員に対し「学校の勤務をどのように受けとめているか、改善を求める内容には何があるか」を調査した（本年8月）。

令和1～5年度までに入会した会員を対象に調査し、その1/3の94人から回答があった。さらにその内63人は学校勤務者として回答してくれた。

回答結果は、整理して県教組に渡し、県教委や県人事委員会等との交渉に反映してもらうよう要請した。

即、改善が図られるわけではないが、一歩前進したと考える。再任用の短時間勤務は、今回の調査の中で働く立場の退職教職員からも復活の要望が出ていたが、働き手確保を望む現場の声もあり、教組の粘り強い働きかけで次年度復活が決定した。

意識調査「質・量とも適正で、やりがいも感じ、充実した気持ちで勤務していると感じているか」に関する回答状況は、「感じている」が13%、「概ね感じている」が63%、「感じられない部分がある」が24%であった。

感じていると概ね感じているのプラス面の回答理由は、経験が活かせる・子どもに関わることや授業が好き・成



多田 治周先生
〈勝山支部〉

（絵は遊び心の原点）

私は子どもの時から絵を描くのが好きだった。中でも中学生の時、勝山病院の絵のコンクールで入賞し、壇上で院長から賞状をもらったことを今も覚えている。

高校生の時からスケッチをしてきたが、今でも出かけている。白山や荒島岳の山並み、越前大野城、勝山の弁天河原など、ふるさとの風景のスケッチは最高だ。以前は油絵も描いたが、今はパステル画が中心だ。

風景の他にもいろいろな絵を描いてきた。時には、トガの「踊り子」や

ですか！

いきいきと活動されている
生き方の秘訣についてお話
(訪問者・編集委員)

フェルメールの「真珠の耳飾りの少女」の模写も描いた。また、遊び心から、アランドロンと自分とのツーショットを描いて、みんなを喜ばせることも。

就職を去るのを節目に初めて個展を開催し、今年の4月には10回展を開催した。この個展では、「先生にお習いして美術が好きになり、今では美術の教師になっている」との感想文をもらって大いに感激した。

私は、遊び心をエネルギーに絵を描いてきたが、他でも遊び心を愉しんできた。その1つが家の前の公園の清掃ボランティアだ。20年ほど前に立ち上げて以来、毎週日曜日の朝食前の小1時間を仲間と一緒に心地良い汗を流している。この仲間とは、コロナ前は年3、4回酒盛りをして楽しんだのだが・・・

（遊び心・ハーモニカ）

音楽も好きで、地区のシルバードンでは、大好きな美空ひばりの曲などをハーモニカで吹いている。「哀愁波止場」を吹いた時には涙を浮かべて聞き入ってくれるおばあさんもいて、私も感激した。そのシルバードンの案内のチラシも、もちろん私のデザイン



である。

（遊び心・平和の俳句）

日刊県民福井が募る「平和の俳句」に毎年応募している。私には若くして戦地に散った兄が3人いる。それぞれ31、26、25歳だった。兄3人を亡くした私は、戦争を憎み、平和を求める気持ちが体に染みこんでいる。「平和の俳句」が、平和の世が来るまで続くよう願うばかりだ。

（遊び心・くらしの作文）

日刊県民福井を取るようになり、「くらしの作文」に挑戦してみたくないが決まらない、締めくくりがまずい・・・など挑戦は苦痛の入り口ではあったけれど、新聞が身近に思えるようになったのは大きな喜びであり、発見だった。

とにかく絵心バンザイ、遊び心バンザイである。

果や達成感を感じる・組織に頼りにされている・現職の働き方改革に貢献などで高いモチベーションを維持していることが伺われる。

感じられない部分があるとした理由は、重い責任と多忙が常態化している・勤務実態と給与が釣り合い・組織の中で疎外感を感じているなどで、ストレスを持つことが伺われる。

ただし、勤務条件や内容の改善を求める意見は、意識面のプラス・マイナスに無関係で、いずれも給与や諸手当(再任用は扶養手当は支給対象外等)、非常勤の時給の改善を求める意見が多かった。また、現職時代と変わらない過密な状況の方も多く、適正な仕事量を求める意見も多い。こうした意見はフルで勤務する方ほど強く、再任用者を定数1ではなく0.5〜0.75と見なして数えれば教職員増につながるのではという意見もあった。

集まった意見には、国レベル、県レベルの法令改正等が必要なものもあり、県教組の協力と理解を得て、改善の要請を粘り強く続けていきたい。また、校内での運用上の配慮で乗り切れるものもあるため、教職員間の対話の重要性を学校現場に訴えていきたい。

最後に、調査にご協力いただきました皆様にお礼申し上げて報告を終わります。

60歳以上の教職員の今後の働き方

- 退職前の定年延長教諭
- 退職後の再任用教諭(フルと短時間)、臨時任用講師(フル)、会計年度任用の講師等(パート)

お元気

年齢を重ねても、今なお方を訪問し、長寿や豊かなを伺ってきました。



納村 力先生
(鯖江支部)

(現職時代の思い出)

大学卒業後、英語教諭として南越中を皮切りに、南越・鯖丹地区小中学校に勤務しました。

小学校では専門の英語が何の役にも立たず、何もかもが新しい経験でしたが、頭も身体も充実していて、楽しい思い出ばかりです。若手の頃には先輩方に感化されたこともあり、教職員のアシスタントに参加する経験もありました。中央中学校を最後に定年退職しました。その頃の中央中学校は1000人を超えるマンモス校でした。現職のときは、色々な事務局や大会運営を引き

受けてきましたが、たくさん教職員の方々に支えられ、楽しく勤務できました。

鯖江青年の家勤務時代に中河公民館主催のバードウォッチングに参加し、西山公園で三鳴鳥の一つ「オオルリ」に出会いました。その美しさに心を射貫かれ、毎朝出勤前の野鳥観察が始まりました。お陰様で勤務校では誰よりも早い出勤でした。昭和61年5月から最近まで西山公園の野鳥を継続観察し、野鳥種とその数を記録し続けてきました。

(退職してからの hobby・ライフワーク)

10年ほど前に、プラントピアで足下から飛び立つ鳥の群れと遭遇し、現職時代から続けていた野鳥観察に、益々のめり込み、それがライフワークとなりました。最近はコウノトリを観察しています。野鳥観察の魅力は、鳥の美しさを独り占めできること、そして鳥たちの動きにあります。毎日行っているからたくさん動物にも出会えます。

別の楽しみは、週2回の卓球です。現職時代中学校では卓球部の顧問をし、自分も教職員の体育大会に出場していました。現在は腰を痛めています。昔取った杵柄、卓球では不思議と身体が動きます。

13年前に青少年健全育成鯖江市民会議の理事をした折に、鯖江にもジュニアリーダー育成の文化を根付かせようと鯖江市子ども会育成連絡協議会を発足させました。そこで育った子

どもたちが今では指導者として活躍しています。共に歩んだ会長が最近急死し残念でなりません。私は、今も顧問として関わっています。

(若い人に)

若い人に望むのは、イデオロギーを持ってほしいということ、職業とは違う自分の世界を持つてほしいということ、それがあるといざというとき、自分を支える力になりますし、心を豊かにし、ゆとりも生まれてきます。

(インタビューを終え・・・)

鳥について熱く語られる納村先生は、素晴らしく耳と目の良い方でした。さすがに長年バードウォッチングをされていると、たまものだと感心しました。また、先生の鳥図鑑は使いこなされていて風格さえ感じました。本当にありがとうございました。

ごさいま



オオルリ



コウノトリ

仲間に支えられて楽しく 福井支部 岩野 篤子 (80代)

健康に恵まれた私は日々感謝、現在幾つものグループに所属して楽しく生きている。

まず書道を基本に日々研鑽しているが苦しみは付きもの、年に数回の展覧会出品がなかなかである。主に仮名書道を志し、題材を短歌や俳句に求めている。

生け花・お茶・パソコン・古典の会などお仲間も違い、お話の中に多くの気づきを頂いている。数独を解くのに頭を抱え、大好きなクロスワードもスマホに助けられて楽しんでいる。

健康第一、食事に気を付け、違和感のある膝と付き合いながらカーブスにかようつもりだ。



今日一日を生きる 大野支部 山口 明美 (70代)

人生、毎日が初体験です。まるで夢のようです。夢のように楽しいのではなく、いとも儚く一日が過ぎることです。でも、朝御飯は美味しいし、お昼は何を食べようかと考えるし、夜は何かあったかなと手帳を見ます。何もない！今夜は極楽だと叫び、録画してある「こころの時代」「100分で名著」「E T V特集」「ユーは何しに日本へ」等々に集中。飽きてくるとナンクロ四字熟語に熱中。他には、文化振興や地域活性化市民活動を少し頑張り、施設等のボランティア、学習教室、読み聞かせ等に救われています。実は、私の今の一大事は、朝起き出来たら、父母以下6人の遺影の前に正座して「今日、目覚めさせて下さって、本当に有り難うございます」と御礼を伝え、朝御飯を美味しく頂くことです。

楽しき日々感謝 三方上中支部 山口 容子 (70代)

夫と農業の毎日です。米と野菜の他に夫の夢だった薬草栽培(当帰、芍薬、セネガ等)。

風に揺れる白やピンクの花々、白や黄の小花に癒やされています。また、母との思い出の黒豆も育てています。

いろんな方から声をかけていただき、地元小学校で読み聞かせ、JAの仲間と生姜や野菜作り、お裁縫、保育所の子どもたちとさつまいもの栽培、ふるさと茶屋「ほっとむら(十村駅舎)」のお手伝い、ドキドキ会(縄文博物館友の会)の活動、館の説明員等、仲間とともに楽しんでいます。

友に恵まれ家族に支えられ、趣味もそこそこ楽しみながら、元気に過ごしています。

「お久しぶりですキャンペーン」実施中！ 大飯支部 谷口恵津子 (60代)

6月に採用2年目の時の同僚と40数年ぶりに会い、とても楽しい時間を過ごした。それを機に、自分で「お久しぶりですキャンペーン」を張り、会いたい人に会いに行くことにした。酷暑の夏も過ぎ、10月に高校の同級生と3人で会った。彼女たちから、新婚旅行で一緒だった人たちや大学のサークル仲間と久しぶりに会ったという話を聞き、「おおっ、友もキャンペーン中」とひそかに心おどらせた。11月には小中の同級生、12月には大学時代の友達と会う予定で、楽しみにしている。他県に住むかつての同僚や、東京の友達とも会いたい。キャンペーンはまだまだ続く。

を
きる

すばらしい!



趣味と奉仕に生きる 今立支部 藤田美樹男 (80代)

退職と同時に、地区の老人会の会長を依頼され、断る理由もなく引き受けて、研修旅行に行ったり、ゲームをしたり、作品を作ったりと楽しい日々を送っています。

体調をくずした時もありましたが、会員の励ましや協力のお陰で健康をどうにかとりもどし、一日一日を平穩に過ごせることの有り難さをかみしめています。

100歳時代を迎えて、まだまだやりたいことがいっぱいありますが、老齢化に伴う障害には勝てません。

でも前向きな気持ちだけは持ち続け、趣味と奉仕に励んで、健康寿命を伸ばそうと考えています。

音楽と人のつながり 勝山支部 竹原 幸雄 (70代)

5年ほど前から始めた合唱がつながり、今は地域で音楽サークルを立ち上げて、音楽家Tさんの指導で活動を続けています。

一番の楽しみは、何をおいてもステージで歌え、時には生バンドの下で聞いてもらえることです。その時までTさんの指導を1ヶ月以上受け、約13組ほどのグループやメンバーが楽器演奏や歌唱発表に挑みます。

これまでに行った「チャリティーコンサート」や「地域特産品(メロン)をテーマにした歌作りと発表」では、人のつながりを実感することができました。

「変わっていく我が身が楽しくて」

鯖江支部 橋本 知子 (60代)

老いていく身が楽しい?変ですね。でも、2ヶ月前に65歳となった現在、60歳定年の頃と比べると、①首が伸びて姿勢が良くなった。②ポッコリお腹が締まってきた。③軟骨がすり減っていた右膝がサポーターなしでも運動できるようになった。等々嬉しい変化を自覚する今日この頃です。これは、5年間続けてきたピラティスとバレエのおかげです。

特にバレエはすごい!!究極の体の使い方です。

腹筋に始まり肩甲骨の下辺りまで筋肉痛を経験。こんな所にまで筋肉があったのかと認識を新たにしました。また、股関節の使い方次第で無理なくどんどん上がる脚。知れば知る程おもしろいです。今は、やっと目を回さないようになってきた回転技をもっと上達したいです。

山小屋デビュー 丹生支部 伊部 和浩 (新入会員)

メタボ対策として始めた休日の山歩きでしたが、山の魅力にはまって趣味となり、今年で6年目を迎えました。現職の頃は、疲労と筋肉痛で勤務に支障が出ることがないよう、天気の良い土曜日に、またコロナ感染を避けるために宿泊はせず日帰りです登っていました。

退職して平日に勤務のない日ができることや、コロナが5類感染症に移行したことから、先日、1泊2日で北アルプスの山に登ってきました。標高3000mに建つ山小屋で飲むビール(値段も標高並み!)は、普段平地で飲むビールとは一味も二味も違うものでした。

1泊2日で家を空けられる環境に感謝し、仕事はほどほどにしながら、体力に見合った登山を楽しんでいきたいと思っています。

今 生

生きるって

つなぐ つながる

敦賀支部 寺腰 優子

「誰ひとり取り残さない」保護司の研修会でこの言葉をお聞きしたとき、「ひとりの子を粗末にすると、教育はその光を失う」と教えていただいた恩師の言葉が思い出され、勇気づけられました。

教育の仕事について40年。子どもの気持ちに寄り添える教師になりたいと、問題行動を繰り返す子どもたちに向き合ってきました。

退職後、私が保護司として求められるのならば、微力ながら相談できる一人で居続けたいと思い活動を始めました。

“社会を明るくする運動”では、「#生きづらさを生きていく」をメインコピーとして犯罪や非行の背景にある様々な「生きづらさ」に思いを致し、「生きづらさ」に寄り添い支え合うことのできるコミュニティづくりを目指しています。

私に人と「つながる」楽しさ、大切さを教えてくれた教え子たちへの恩返しのため始めたこの活動。私自身が暗いトンネルにいたときに、いきなりあたたかな明るい光が差し込んだような感覚に包まれたことがありました。「人はつながれる」ことを教わった瞬間です。誰が教えたわけでもない、誰かに教わったわけでもない「して良いことと悪いこと」を地域で支え合って生活することで、次世代につなげて伝えていきたい。これからも生きづらさを抱かえた子どもたちに寄り添いたいと思います。

「更生」という字は「更に生きる」と書きます。私はあの時にきっと「更に生かされた」のだと思います。支えてくれた人たちを、つながっていくまだ見ぬ人たちを想いながら、できることを、できる限りさせていただこうと心に決め、この活動を続けていきます。



わたしのモチベーション

福井支部 竹内 一也

退職して10年。地域の役員など何某かの活動をしてきた。その中で、自分を成長させてくれている活動として、2つを紹介したい。

ひとつは、SSW（スクールソーシャルワーカー）としての活動だ。学校生活の中で、不適応（不登校など）を起こしている児童生徒の支援活動だ。厳しい家庭環境（貧困、虐待、精神疾患、ひとり親など）にある子どもたちを支援するのに、私一人の力ではどうにもならない。学校・福祉・病院関係の人たちと話し合いながら、その子の不適応の背景を見立てて支援していく。見立てていく中で、いろいろな気づきをもたらせてもらえる。その気づきを大切に、その家庭や子どもたちに関わっていく。数年以上の関わりだ。毎週、訪問・面談を継続して、信頼を得ていく。同じ苦労をしている仲間に相談しながら、粘り強く関わっていく。卒業して、笑顔で、次のステップへ進む子どもたちが、活動のモチベーションとなっている。

ふたつ目は、金融広報アドバイザーの活動だ。幼児から高齢者への金融・金銭教育活動だ。私の担当は、主に、子どもたちだ。アドバイザーの方々による手作りのお店グッズを携えて、学校や児童館、アオッサなどで、お買い物ゲームを展開する。本物そっくりのかぼちゃ・ニンジン・さんま・肉・バナナ・お菓子など、沢山の商品が並ぶスーパーで、目を輝かせながら、お買い物を楽しむ子どもたちとの触れ合いが楽しい。全国のアドバイザーが集まった日本銀行での交流会では、たくさんの学びを得ることができた。お陰で、新しいゲームの開発ができ、子どもたちは楽しんでいる。

今後も、つながり合いの中で自分を成長させていきたい。



複数のコミュニティー

吉田支部 坂本 栄次郎

退職前のある講演会で藤原和博氏の話聞いた時、「退職後のために今のうちから複数のコミュニティーを作りましょう」と言われた。

(地域とのつながり) 退職2年目に村の道場役を引き受け西本願寺での得度習礼を受講して僧侶になった。葬儀があれば臨終動行や七日参りは道場役の仕事だ。御講様や報恩講参りもお寺に代わって行く。それぞれの家を訪問して念仏やお経を上げるが、村の皆さんへのボランティアと考えている。

(サークル活動) 退職前から合唱サークル「コールフロイデ」の連絡役を引き受けてきた。現在はコールフロイデが中心になって「永平寺みんなの第9コンサート」も事務局として活動している。コロナ禍で3年間のブランクがあったが、多くの合唱仲間が集まってベートーベンの第9交響曲を歌っている。コールフロイデの練習は2週間に一度だが、永平寺第9の練習が始まる7月から11月は、コールフロイデの練習と第9の練習が毎週交互に続くので、つらい時もある。しかし、県立大学の合唱サークル出身の若い人たちと話していると元気が湧いてくる。

(社会へのチャレンジ) 退職して交際範囲が狭くなったが、新しいチャレンジとして小説家を目指している。社会科教師だった経験を活かし、主に福井を舞台にした歴史小説を書いている。小説家デビューの早道としてAmazonから電子書籍として出版にこぎつけた。電子書籍なので出版費用は無料。出来るだけ安く販売するために設定最安値の99円で販売している。友人や親せきを中心に25冊ほど売れたらしい。冠婚葬祭でしか会えない従兄弟たちが小説の話題でラインをにぎわしている。これも繋がりなのだろう。



つながり

ソフトバレーボールを通して

坂井支部 武川 博一

退教会でも顔なじみの友人に誘われて、地域のシニアソフトバレークラブの活動に参加するようになって丸5年になります。

地域の活動といっても、隣の三国町のチームに加入してのことであり、時間が19時～21時の週2回実施ということもあって、多少のためらいを覚えながらのスタートでした。

しかし、そんな私の迷いを打ち消すように、温かく迎え入れて頂いたチームメートの皆さんのお陰で、以後は毎回楽しみに練習会場に足を運び、心地よい汗を流しています。

クラブ員の登録人数は現在20名程ですが、その顔ぶれは多様で、チーム結成当時から地元地区の方を中心に、地区外の三国町内の方や、私のように町外のメンバーも加わり、更に町内小学校に勤務するシニア未満の現職教員の方も参加するなど、チーム内に明るい開放感と活力を感じます。

またメンバーの半数近くが女性であることも、クラブとしてはバランスがとれています。

年齢構成は70歳代が半数を占めますが、80歳代の男性お二人が本当にお元気で、その前向きな姿勢とバワフルなプレーに、この先の私たちが目標としたい姿が重なります。

ところで登録人数は20名程を数えますが、毎回の練習に参加できているのは10数名程で、ゲーム形式でラリー戦を楽しめる程の人数が毎回集まると、更に活気が増すと思われます。

このクラブには、みんなでソフトバレーを楽しみたいという空気が根づいており、私には居心地の良いつながりの場になっています。





油彩画 「魅せられて」 横山 純子 氏



水彩画 「木立」 脇田 典子 氏

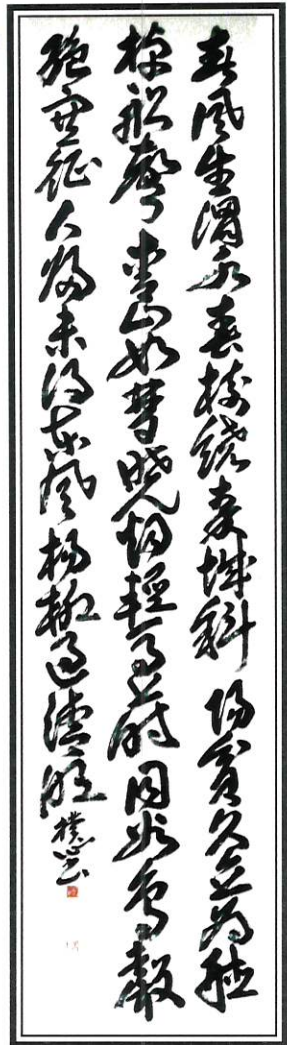
書

松浦 悦子(桃苑) 氏
幽竹は人の如く静かに
閑花は我が為に香し



書

「天文治 詩二首」 嶋田 問(樸心) 氏
春風渭水に生じ 春樹秦城を繞る
斜陽貪って久しく立つ 為に棹船の声を聴く
青山夢の如く曉煙軽く 馬上時に聞く谷鳥の声
絶塞征人帰ること未だ得ず 東風楊柳清明を過ぐ



県退教 ミニギャラリー 作品より



陶芸 「灯りとり」 荒家 禮子 氏

ミニギャラリー 作品募集

◎ 絵画・写真・工芸手芸品・書・短歌俳句等
気軽に出品ください。
ご連絡は県退教へ。
◎ 心に残る作品が出品されています。近くへお越しの折はぜひご鑑賞ください。

編集後記

いつまで続くのかと思われた今年の猛暑ならぬ酷暑も終わり、秋を味わう間もなく、突然暖房の必要な季節となりました。夏の疲れが出る頃です。寄る年波には抗えませんが、さて、今回初めて「お元気ですか」の取材をさせていただきました。お二人の先生がライフワークとして励んでおられるお姿と、熱い語り口に圧倒され、大変刺激を受けました。「まだまだ頑張れる」と自分自身を奮起させるよい機会になりました。
多田、納村両先生をはじめ、お忙しい中を本号にご協力くださいました皆様に深く感謝申し上げます。
最後に、会員の皆様のご健康と益々充実した第二の人生を、心よりお祈りいたします。
(平馬吉隆・岩田美智恵・和多田訓子)

会員物故者氏名(敬称略)

(令和5年11月20日現在)
謹んでご冥福をお祈りします。

福井支部	黒川 榮 86
坂井支部	藤田フミ子 92
	高島千鶴子 96
	小林 弘行 93
	吉村 照子 92
	不破 三勇 95
	三浦 榮子 96
	佐藤 博之 91
	小原 淳子 85
	斎藤 彰子 100
勝山支部	廣田 礼子 87
	石田千代子 99
	大谷 正一 90
武生支部	増田 千垂 90
	谷端 幸子 94
今立支部	森川 治 93
三方支部	